

土木工学・建築学委員会（第25期・第8回）

議事要旨

1. 日 時：令和4年3月17日（金）10：00～12:00
2. 会 場：遠隔会議
3. 出席者：小林潔司、米田雅子、沖大幹、田辺新一、塚原健一、林春男、前川宏一、佐々木葉、竹内徹、小池俊雄、池田駿介、古谷誠章（下線欠席）出席12名

配布資料：

- 資料0 土木工学・建築学委員会(第25期・第6回、第7回)議事要旨
- 資料1 公開シンポジウム「第68回構造工学シンポジウム」の開催について
- 資料2 学術フォーラム「国難球災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」企画案
- 資料3 公開シンポジウム「越境しあうインフラガバナンス-性能とサービスを繋ぐ-」企画案
- 資料4 公開シンポジウム「SDGsに向けた環境工学の役割」企画案
- 資料5 公開シンポジウム「第7回理論応用力学シンポジウム-力学のさらなる発展に向けて-」報告
- 資料6 インフラ高度化分科会活動報告
- 資料7 気候変動と国土分科会活動報告
- 資料8 WFEO 分科会報告
- 資料9 IRDR 分科会提言骨子案
- 資料10 感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市の再考分科会報告
- 資料11 環境学委員会合同会(脱炭素社会分科会) 報告
- 資料12 都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会報告
- 資料13 2022年度土木工学・建築学委員会 全体会企画案

議事：

1. 第6回、第7回(メール審議)議事要旨について確認された。
2. 公開シンポジウムの企画審議・報告について
  - ・資料1：米田委員より第68回構造工学シンポジウムが4月16日(土)～4月18日(日)にかけて東京工業大学(大岡山)およびオンラインのハイブリッド形式で開催されることが報告され、承認された。
  - ・資料2：学術フォーラムの企画案募集に対し、IRDR分科会よりフォーラム「国難球災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」が企画提案され、承認された。
  - ・資料3：インフラ高度化分科会より学術シンポジウム「越境しあうインフラガバナンス-性能とサービスを繋ぐ-」が企画提案され、承認された。
  - ・資料4：環境工学連合講演会「第34回環境工学連合講演会：環境工学の22世紀」が企画提案され、承認された。
  - ・資料5：3月11日に開催された「第7回理論応用力学シンポジウム-力学のさらなる発展に向けて-」の概要が報

告された。

### 3. 分科会の活動状況について

- ・資料6～12を用いて、各分科会の活動状況が紹介された。
- ・資料6：インフラ高度化分科会活動報告について小林委員長より説明があった。3月8日に分科会を開催し、8月の公開シンポジウムに向けての企画について詳細を検討中である。
- ・資料7：気候変動と国土分科会活動報告について、池田委員より説明があった。次回は4月13日を予定しており、温暖化による水・土砂災害の激甚化・頻発化に対応した流域治水の考え方、人口減少や産業構造の変化を踏まえた住宅・土地利用の在り方に関する見解の発出を予定している。米田委員より見解の発出において英訳での発出も求められていること、ネイティブ・チェックの補助予算が用意されていることが紹介された。
- ・資料8：WFEO分科会について塚原委員長より活動報告があった。2022年3月のWFEO年次総会にて塚原委員長がWFEO国別代表理事に選出された。アメリカは候補を出さなかったが、英国・フランスは理事が復活選出された。
- ・資料9：IRDR分科会活動報告について、林委員より説明があった。IRDR International Center of Excellence (ICoE)を設立し、令和5年度に国際フォーラムを企画している。意思の表出については、提言骨子案が説明され、所定の様式に従って学術等助言委員会の査読を受けることが承認された。令和4年7月に学術フォーラム「国難球災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」を企画中。
- ・資料10：感染症に学ぶ建築・都市・地域の再考分科会の活動状況について竹内委員長より報告があった。令和3年11月24日にオンライン開催されたパンデミックと社会に関する連絡会議では、学術会議内66分科会より54件の提案があることが紹介され、これらを大きく「医療・研究体制」と「社会変革」の 카테고리 およびその周辺の10のグループに分類し、提言をまとめていく方針となっている。第5回(R3/11/24)には大西隆氏を迎え、「感染症×都市×情報通信 感染症蔓延の経験は国土・都市の構造を変えるの？」と題した講演を頂いた。
- ・資料11：環境学委員会合同会(脱炭素社会分科会)について田辺委員長より説明があった。2022年3月18日に日本建築学会主催、学術会議後援で建築分野のカーボンニュートラルに関するシンポジウムを行う予定。デベロッパーに対する脱炭素の働きかけもかなり浸透してきている状況である。
- ・資料12：都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会について古谷委員長より説明があった。「デザイン」という用語が用いられている範囲は大変多岐に渡り、さまざまな構築物、製造品やその設計に関する付加価値として認識されており、社会的な共通認識を持ってもらうためにも学術会議での議論・定義づけは重要であると考えている。今後、外部より講師を招きデザインの多様な概念および価値を総覧できる体系に取りまとめ、出版物などとして発出することを検討したい。
- ・資料13に基づき令和4年度の全体会(5月16日)の構成について議論し、基調講演は小林委員、田辺委員、竹内委員より行うこととなった。プログラムの構成は、委員長に一任することになった。

### 4. 令和4年度の予定について

- ・令和4年度第1回(全体会)：2022年5月16日(月)13:00～17:00
- ・令和4年度第2回：2022年8月8日(月) 10:00～12:00
- ・令和4年度第3回：2022年11月25日(金) 10:00～12:00

以上